

2018 全日本 F3 第 13 戦 第 14 戦 第 9 戦
岡山国際サーキット
2018 年 9 月 8-9 日(土)

予選

観客: 5,400 人 天候: 雨

2018 年全日本 F3 選手権シリーズは、今年 2 回目の岡山国際サーキットを舞台にして、第 13 戦、第 14 戦、そして 7 月の同サーキットで台風の影響により一旦中止された第 9 戦が復活して 3 レースのイベントとなった。秋雨前線のために雨、ウエットコンディションの予選となり、これまで 9 勝をあげてランキングトップの坪井 翔が安定した速さを発揮し、第 13 戦と第 14 戦のポールポジションを獲得。宮田莉朋は、第 13 戦を 5 番手、第 14 戦を 3 番手グリッドからスタートすることとなった。



- 予選日は、朝から小雨が降り続き、30 分間の予選セッションが開始される時には、本降りとなってしまった。
- 1 セット目のレインタイヤでコースインした坪井は、早々にトップタイムをマーク。雨の影響により、セッション途中で赤旗中断となったが、その時点でベスト&セカンドベストタイムをマークしていた。
- セッションが残り時間 8 分間で再開されると、雨がやや強まった状況にもかかわらず、各車がタイムアップ。
- 坪井は、中断の間に 2 セット目のウエットタイヤを装着し車高調整を施し、セッション再開後のアタックでタイムを更新。第 13 戦と第 14 戦のポールポジションを獲得。宮田は、1 セット目で 6 番手、2 セット目で 5 番へタイムアップ。セカンドベストタイムは、3 番手だった。
- 第 9 戦のスタートポジションは、第 13 戦の決勝結果によって決定する。

Driver	Car No.	Qualify for 13	Qualify for 14
坪井 翔	36	P1 1:37.730	P1 1:37.779
宮田 莉朋	37	P5 1:38.364	P3 1:38.496

天候	雨/ウエット	
気温/路面温度	気温 21-22度C	路面 26-25度C

坪井 翔 (36 号車ドライバー)



「雨が得意なので、予選が雨で良かったです。僅差の戦いになると思っていたので、まずは、1 セットのタイヤでタイムを出しておきました。その後、そろそろタイヤを交換しようかなと思っていた時に赤旗が出たので、タイヤをニューにしてセットアップも変えて再びアタックをしました。クリアラップも取れたし、タイヤのグリップも高まってダブルポールを獲得できました。雨のレースは、前で走れば抜かれることはないと思うので、連勝できればと思います」

宮田 莉朋 (37 号車ドライバー)



「決して、雨が不得意ということはないです。過去に F4 では、ウエットの岡山でポールを獲得しています。今シーズン、ウエットの富士では、トップと秒単位でタイム差をつけられましたが、今回は、それほどのタイム差はないので、雨の走り方、セッティングが決まれば、もっと速く走れる手ごたえがあります。特にセクター1 は、確実にタイムアップできると思っています。決勝も雨ですけれど、ウエットコンディションでは、どれだけブレーキングで突っ込めるか、チームの過去のデータを見て順位アップしたいと思います」

吉武 聡 (エンジニア)



「ここ岡山国際サーキットでウエットコンディションの経験があり、そして、雨が得意な坪井選手が速さを発揮してくれました。赤旗中断の最中にマシンのセットアップを変更して、ニュータイヤをセットしたので、雨量が増えてもタイヤのピークグリップが高まってタイムアップしてくれました。宮田選手に関しては、雨の経験の少なさがあり、坪井選手と比較して各セクターで少しずつ差が出ている状況です。それでもセカンドベストタイムでは、3 番手を出して頑張ってくれました」

関谷 正徳 (チーム監督)



「今回のウエットコンディションにおいても、かなり接近したタイム差で終わった予選でした。その中でも坪井選手が実力を発揮しました。ちょっと宮田選手が期待通りにタイムアップができなかった。それは、マシンの状況をもっと的確にエンジニアに伝えられているかどうか。それによって、正しい方向にマシンセットアップを行えるかどうか。その点で坪井選手が長けていることが証明されています」

2018 全日本 F3 第 13 戦 第 14 戦 第 9 戦
岡山国際サーキット
2018 年 9 月 8-9 日(土-日)

決勝

観客: 8,000 人 天候: 曇り/曇り

岡山国際サーキットで開催された 2018 年全日本 F3 選手権シリーズ第 13 戦、第 14 戦は、秋雨前線の影響で両レースともにウエットコンディションとなった。ウエットコンディションの中でも二つのレースをポールポジションからスタートした坪井 翔は、トップを快走して連勝。11 勝へと勝ち星を増やした。宮田 莉朋は、経験の少ないウエットコンディションでも予選順位をキープしてゴールした。日曜日の最終レースとして予定されていた第 9 戦(7 月に一旦中止され、今回復活)は、中止が決定された。



- 第 13 戦のスタート時点では、雨が殆ど止んだが直ぐに再び降り始め、コンディションはウエット。坪井は、無難にスタートを決めてトップを堅持。
- 宮田は、スタートで一ツ順を落とすが、レース半ばで上位の一台がリタイヤしてスタートポジションの 5 位でゴールした。
- 雨脚が強くなった第 14 戦は、予定した 25 周から 18 周へと周回数が短縮された。スタートはセーフティカースタートとなった。
- 3 周終了時点でセーフティカー(SC)がコース外に退去。坪井、宮田共に順位をキープしてレースが進行した。レースの終盤に雨脚が再び強まって 16 周目に SC が再びコースイン。そのままの隊列で 18 周目にゴールラインを切って、レースが終了した。
- 坪井は、8 回目のポール/ファステスト/優勝のフルマーク。ポイントで 2 番手の宮田に対して 59 ポイント差をつけてほぼ全日本 F3 選手権ドライバー部門タイトルを手中に収めている。※第 9 戦が復活する可能性もあり、そうすると、残り 6 戦となる。
- 全日本 F3 選手権チーム部門 において、開幕戦から第 14 戦までフルポイントを獲得し続けて、シーズン終了を待たずしてタイトル獲得を決定した。

Driver	Car No.	Round 13 /Fastest Lap	Round 14 /Fastest Lap
坪井 翔	36	P1 1:37.444	P1 1:39.222
宮田 莉朋	37	P5 1:38.411	P3 1:40.035

天候	雨/ウエット	雨/ウエット
気温/路面温度	気温 21-21/22-21	路面 26-25/24-25

坪井 翔 (36 号車ドライバー)

「雨は得意なので、このコンディションなら勝てるだろうと思っていたのですが、第 14 戦は途中で雨が強くなって来たので SC が出てこないかと思っていました。雨では、他車に差をつけられるのですが、ドライレースも僅差でなくて、もっと差をつけて勝ちたいですね。また第 9 戦が中止になって、次の菅生で、また復活するかも、という情報もありますけれど、1 イベントで 4 レースは精神的にかなりきついですね。ほぼタイトル獲得といわれますけれど、チャンピオンについてはあまり意識せず、勝ち続けられれば、結果としてチャンピオンになれるという気持ちで次戦に臨みます」



宮田 莉朋 (37 号車ドライバー)

「雨の走り方を完全に克服できないまま終わってしまいました。第 13 戦では、スタートで失敗してしまって順位を落としましたが、最後は 5 位でフィニッシュ出来まし。第 14 戦では 13 戦での反省を踏まえて改善できた点もありました。いろいろ走り方を変えてみて、タイムアップできたし、最後まで頑張ったかったですけれど、再びセーフティカーが入ってしまい、他のドライができなかったのが残念です。しかし、エンジニアに対して、自分が感じ取ったセッティングの方向性を提案すれば、確実にタイムアップできる感覚を掴むことができたので収穫もありました」

吉武 聡 (エンジニア)

「雨のコンディションでは、トップマシンのアドバンテージは大きいので、それを十分に生かして坪井選手が連勝してくれました。予選から決勝までとても良い流れで終わられましたね。宮田選手は、今回は良い経験を積んだと思いますが、終わってみれば、まだ全般的に改善点がありました。その中でも徐々に速さを増して来てはいます。次戦の菅生でも勝ち続けて行きたいと思います」

関谷 正徳 (チーム監督)

「坪井選手の走りは、完璧であったと言って良いと思います。第 14 戦は、雨が強くなって来た時には、リスクを犯さない走りに切り替える余裕もありましたね。直ぐにでも次のステップ、上位カテゴリーへステップアップできる選手ですから、ドライでもウエットでも勝てて当然なのですが。一方の宮田選手は、雨の経験の少ない中で彼なりに掴むところがあったと思います。特に第 14 戦では、第 13 戦で学んだことを実践して、かなり良い走りだったと思います」

※次戦は、9 月 29-30 日に、宮城県のスポーツランド SUGO にて、シリーズ第 15 戦、第 16 戦、第 17 戦が開催されます。